



トモスス助成2023年度 インパクトレポート

2023年11月

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

ごあいさつ

昨年度は、日本連盟として初のクラウドファンディングで**464万9000円**のご寄付をいただき、おかげさまで**144人のひとり親家庭**にスカウト活動体験をプレゼントできました。皆さまに御礼申し上げます。

さらに日本連盟100周年記念募金として合計1億円を超える寄付が集まり、「未来のこどもたち基金」として持続可能な形での基金造成を進めてまいりました。(寄付は他にも「スカウトデジタルミュージアム」創設に役立てられます)

2023年度には、それらを原資の一部として、300名の枠でトモスス基金としての募集を進めてまいりましたところ、**235名のひとり親等家庭へ助成**を行い、**助成総額は705万円**となりました。

この報告書は、助成を受けたひとり親等家庭の保護者を対象に利用者アンケートを行い、その結果をまとめたものです。寄せられたご寄付をもとにして、生み出された新しい価値としてご覧いただければ幸いです。

レポートサマリー

- ☑ スカウト活動をできるだけ長く続けさせたい人は**71%**
- ☑ スカウト活動を友人知人に勧めたい人は**73%**
- ☑ 生活のなかに補助制度があればよいと思う人は**66%**
- ☑ 参加の動機No.1は「家庭で出来ない活動だから」
- ☑ ビーバーは元気! カブは楽しそう! ボーイは面白そう!

ボーイスカウト日本連盟創立100周年記念募金

募金目的 未来の子どもたち基金およびデジタルミュージアム設立

募集期間 2021年12月～2023年3月

目標金額 1億円

寄付総額 **1億119万8359円**

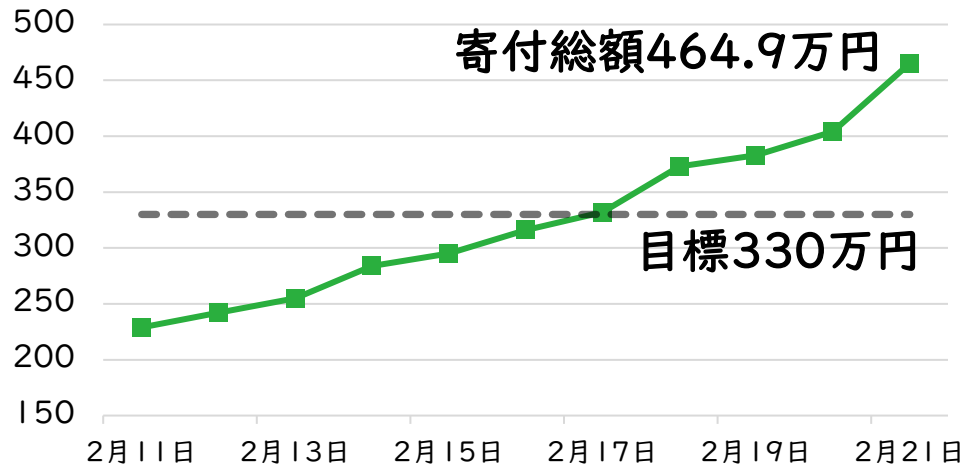
内訳	創立100周年記念募金	¥88,869,359
	クラウドファンディング	¥4,469,000
	チャリティチーフリング	¥2,680,000
	遺贈など	¥5,000,000

※クラウドファンディング寄付分は全額を「ひとり親家庭支援」に充てます

ご協力ありがとうございました。

100周年記念クラウドファンディングについて

実施期間 2022年11月23日～2023年2月21日（90日間）
目標金額 330万円
寄付総額 **464万9000円**（目標達成率**141%**）
支援者数 293人（サイト訪問者数の5.21%）



成立 144人のひとり親家庭にボーイスカウト体験をプレゼントできます！

100周年記念 | ひとり親家庭の子ども100人へボーイスカウ...

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

#子ども・教育

140%

寄付総額	寄付者	終了日
4,649,000円	314人	2/21

https://readyfor.jp/projects/100th_scout

クラウドファンディングへの応援メッセージ

日本のボーイスカウトの100年は、日本の子どもたちの100年の一部だと思います。これからも多くの子どもたちが社会に飛び立っていけるようご活躍ください

素敵な活動ですね。一人でも多くのお子様に素晴らしい経験をしていただきたい

自分のいた団もまだ頑張っているようです。近くにいないため協力もできませんでした。でもこのカタチなら、スカウトに貢献できます。機会をいただきありがとうございます。

夫が、こよなく愛したボーイスカウト活動。元気でいたら、必ずこのプロジェクトの応援をしていただろうと思います。参加させていただきます。

子どものころのボーイスカウト経験が、いろいろなベースになっています。感謝の気持ちを込めて応援します。

ひとり親家庭で他の援助もないとボーイスカウト活動をやりたくても出来ない子どもたちが大勢いると思います。そんな子どもたちのお役に立てればと思います。

私という人格形成に良い意味で影響を受けましたので、少しではありますがご支援させていただきます



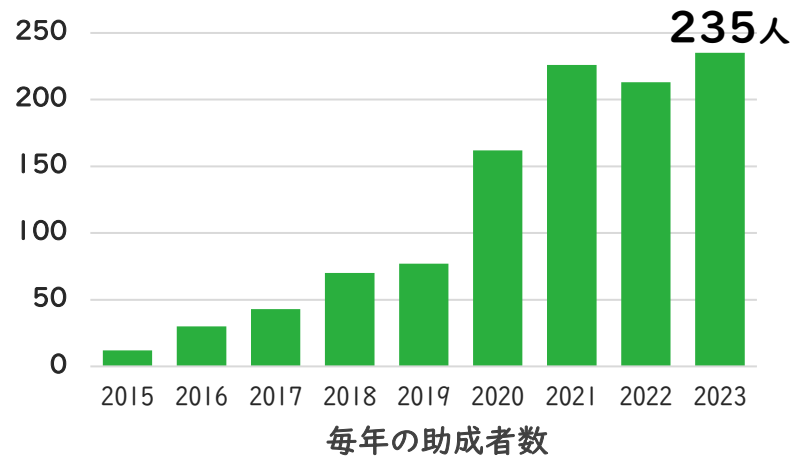
ともに進もう（ひとり親家庭等応援） 助成プログラム

<https://www.scout.or.jp/member/tomonisusumou/>

激変する社会情勢や経済環境の変化を受け、子どもたちがおかれている困難な状況に目を向け、「誰も取り残さない」で希望する子どもたちがスカウト活動へ参加できるように、2015年から助成プログラムを行ってきました。

生活に困難を抱えるひとり親家庭などは「体験格差」を抱える傾向にあり、子どもの体験活動への参加を促進するため、助成を公募し、世帯（保護者）の所得状況等について審査を経て、活動支援金の助成を行います。

2015～2023年の9年間で、助成者はのべ**1,068名**に及びます。



ひとり親家庭へのアンケート 調査概要

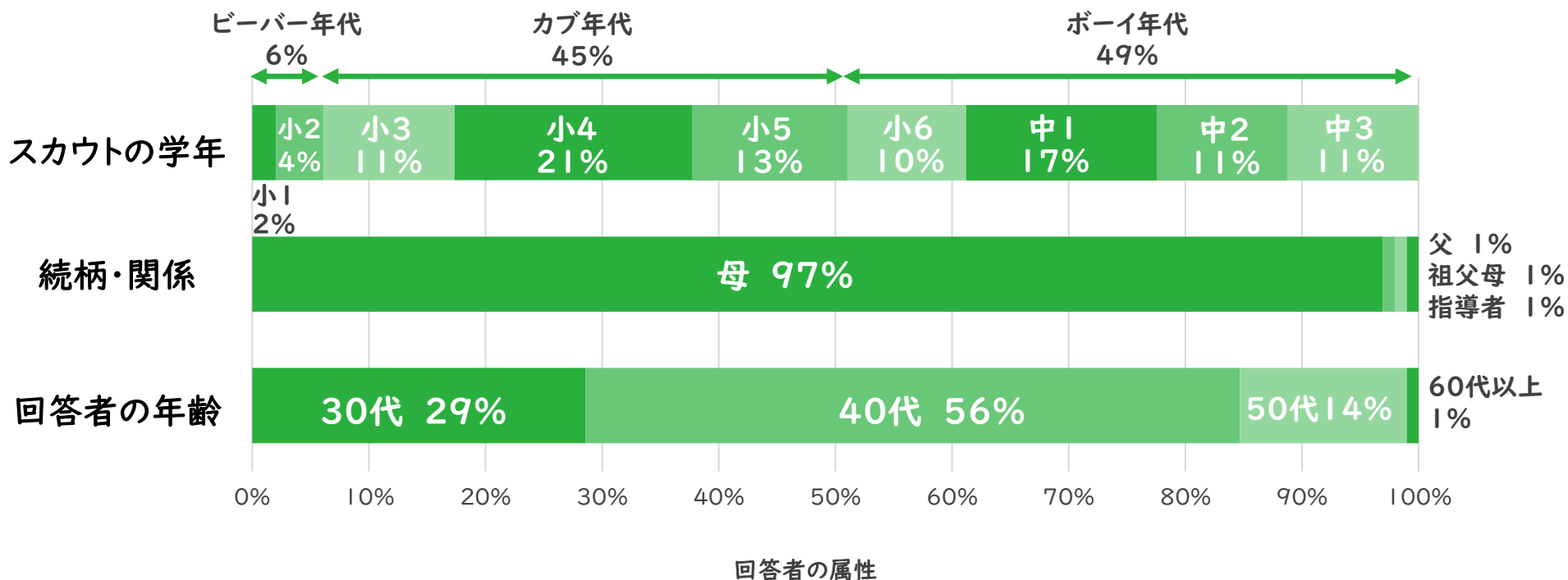
実施期間：2023年8月20日～9月27日（29日間）

調査方法：オンラインアンケート（グーグルフォームで回答）

調査対象：2023年度にともに進もう助成を受けた215家庭

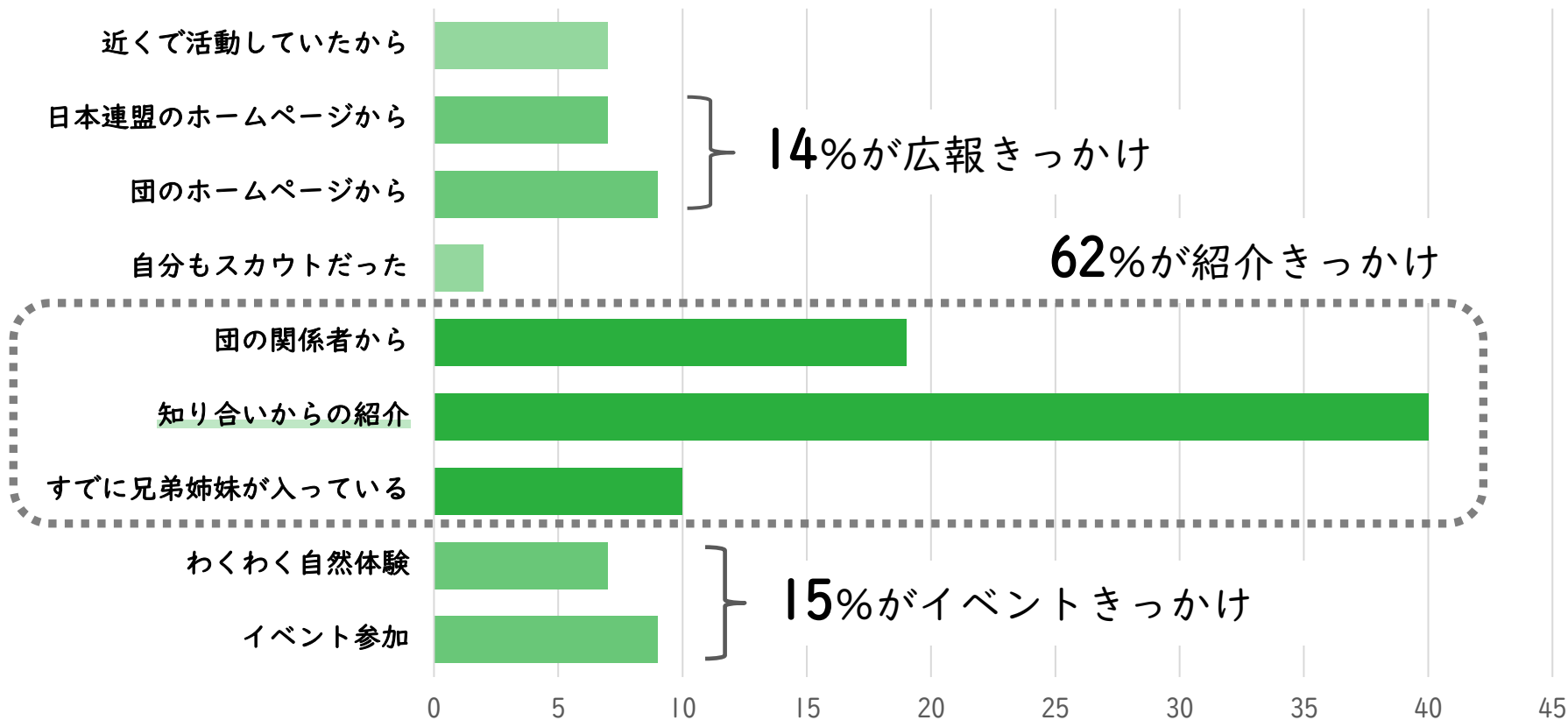
回収総数：98家庭（回収率45.6%）

実施主体：公益財団法人ボーイスカウト日本連盟ファンドレイジング特別委員会



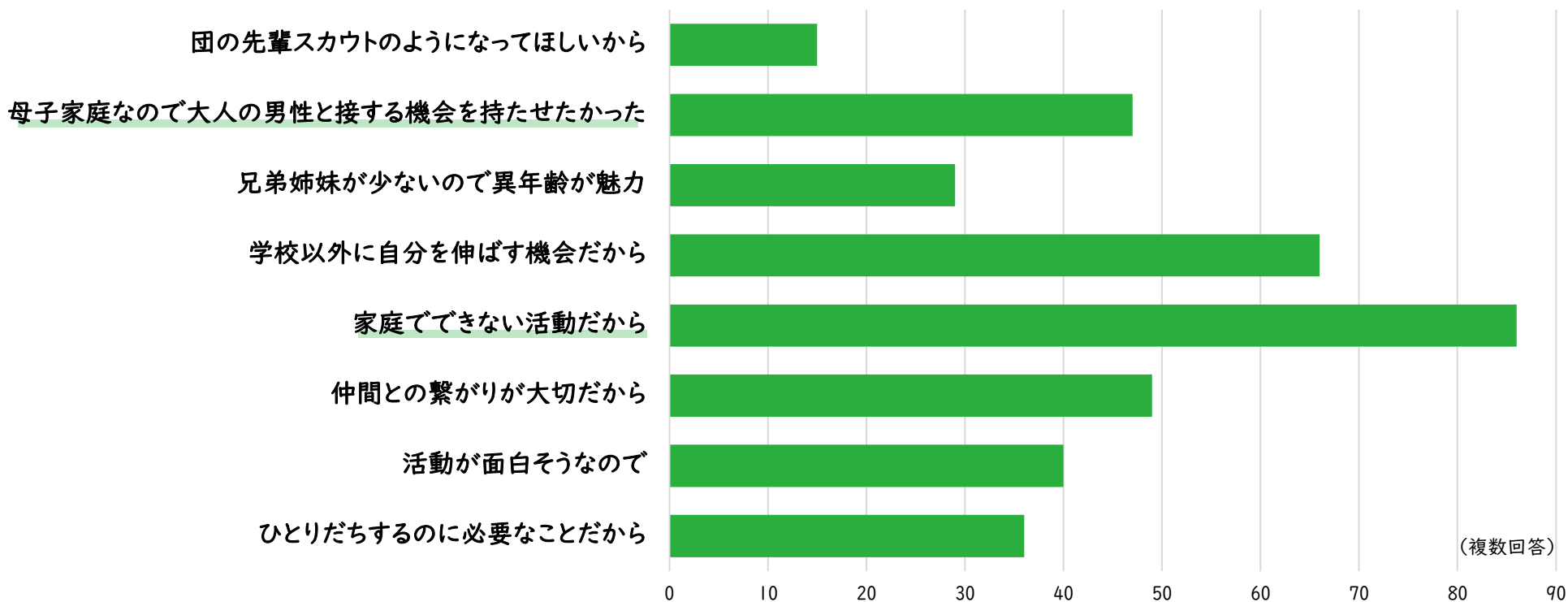
スカウト活動を知ったきっかけ

- ☑ もっとも多いのは知り合いからの紹介
- ☑ 知り合い・団・兄弟のつながりからの紹介はあわせて62%
- ☑ イベントきっかけ、HP・広報きっかけはほぼ同数



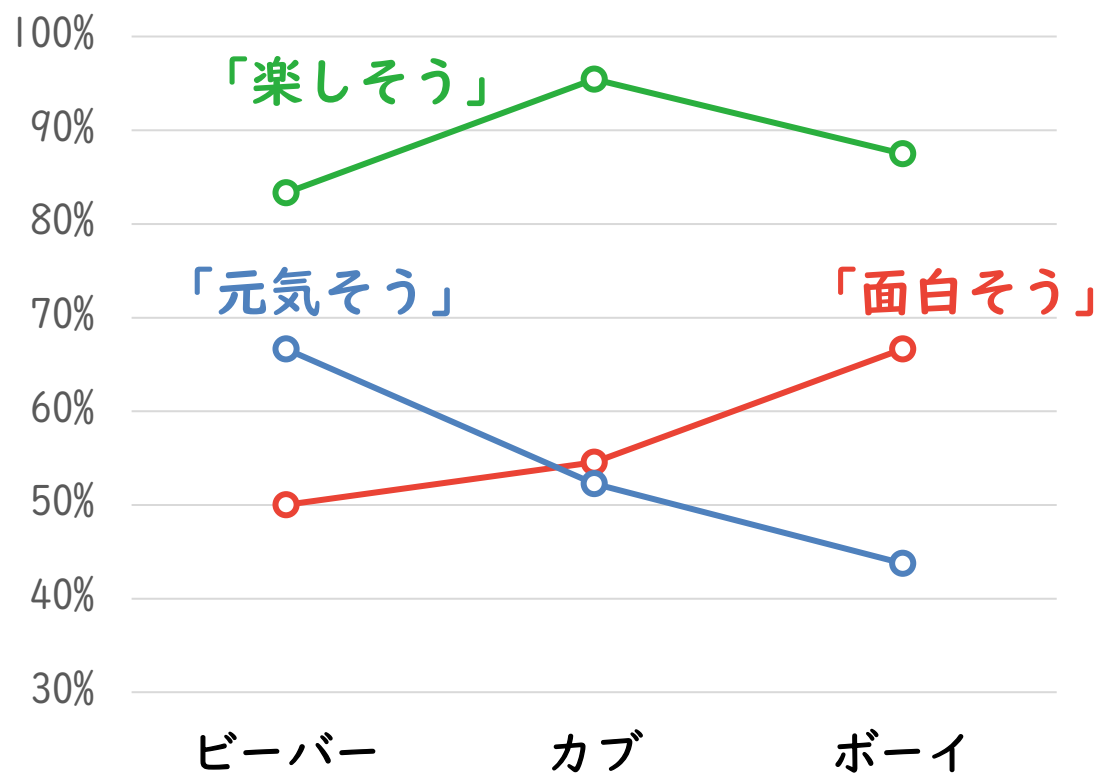
スカウト活動に参加した動機・期待

- ☑ 活動参加の動機No.1は、「**家庭でできない活動だから**」
- ☑ 約半数が「**母子家庭なので大人の男性と接する機会を期待している**」ことは、ひとり親家庭ならではのニーズ
- ☑ 厚労省調べではひとり親の子育ての悩みは「**教育・進学**(60%)」「**しつけ**(13%)」となっており、スカウト活動への期待はそれらに対応(令和3年度全国ひとり親世帯等調査)



スカウト活動に参加して見られる変化

- ☑ 圧倒的多数が「楽しそう」という印象
- ☑ 部門別に見ると、ビーバーは元気そう、カブは楽しそう、ボーイは面白そうというキーワードが特徴となっている



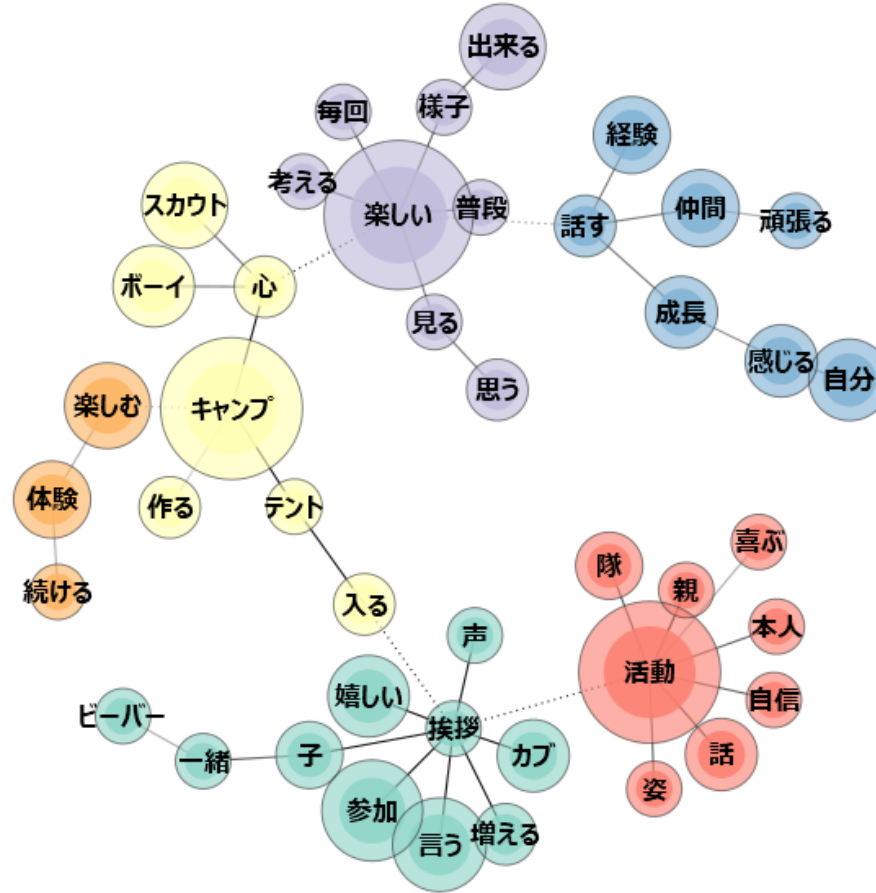
スカウト活動でのエピソード

- ベンチャースカウトに進級したら、ぜひカブ隊にかかわりつつ、**上を目指したい**と言っていた
- キャンプ等で親から離れて活動の際、**知らないうちに**できることがふえており、本人にも自信になっていた
- 毎回私1人ではしてあげられないようなことが経験出来る**ので娘は楽しんでいます
- 学校以外でも友達ができた**ことを喜んでいます。
- カブの活動に参加するようになってから、**挨拶がとても上手になった**。大きな声でハッキリと言うので相手も気持ちが良いらしく、褒められることが凄く増えて、嬉しくてまた更に挨拶するようになって…と、とても良い循環。
- ひとり親の辛い状況の中、ボーイスカウトに親子共々助けられ、絆を結び直す助けをもらいました。(離婚を経て)荒れた気持ち、友達になぜ苗字が変わったのかと心えぐられるときに**学校で支えてくれたのも、朝迎えに来てくれたのもボーイスカウトの仲間達でした**。



スカウト活動でのエピソード

- ☑ エピソードの自由記述では、「楽しい」「キャンプ」「活動」というキーワードが頻出し、さまざまな単語と一緒に使われた。保護者の方々にも、スカウト活動の良さがしっかり伝わっていることが分かる。

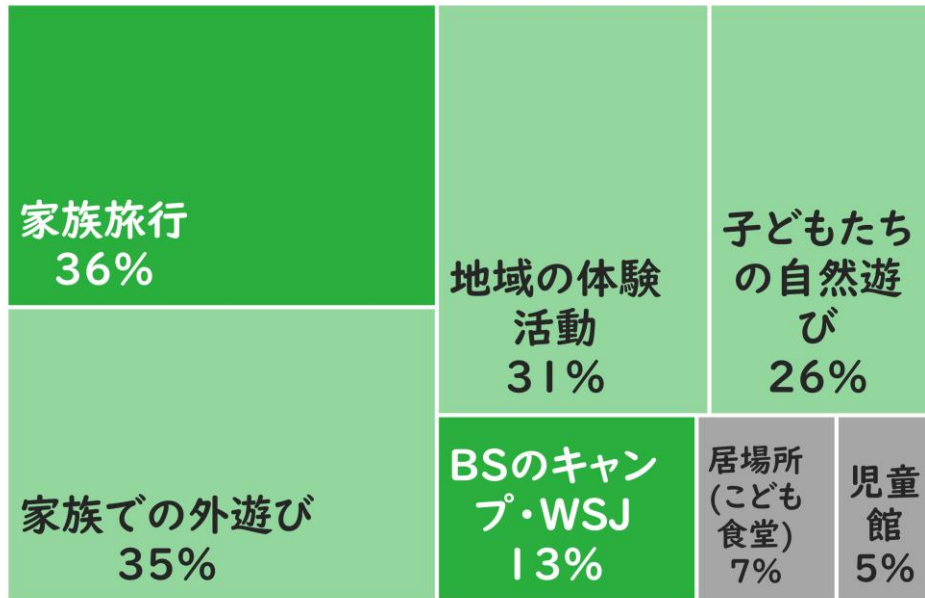


文中で一緒に使われた単語の繋がりを示すネットワーク図。使用頻度の高い単語は大きな円になっている。

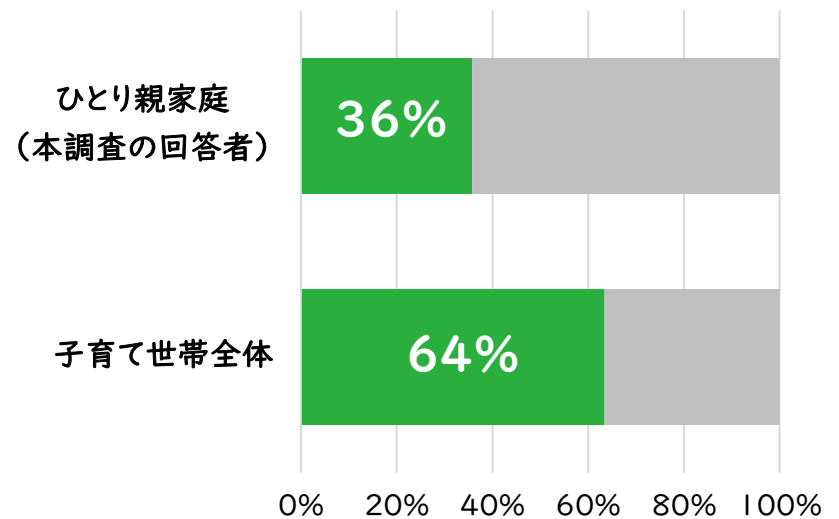
夏休みの思い出（学校以外の体験活動）

- ☑ 家族旅行に行った割合は**36%**だった。子育て世帯全体で夏休みに国内旅行をする予定があった割合**64%**と比べると、**体験機会の格差**が認められる。
- ☑ **ボーイスカウトが唯一の思い出**だったという人や、「**特になし**」「**どこにも行けなかった**」という人も複数見られた。

夏休みの思い出（学校以外の体験活動）（複数回答）



夏休み中に家族旅行に行った・行く予定がある

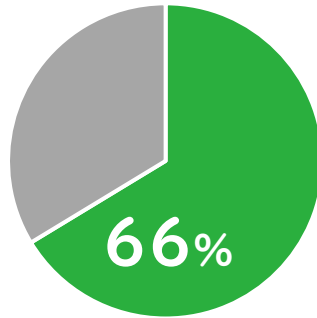


※子育て世帯全体の家族旅行の予定の割合は、小田急SCディベロップメント調べ

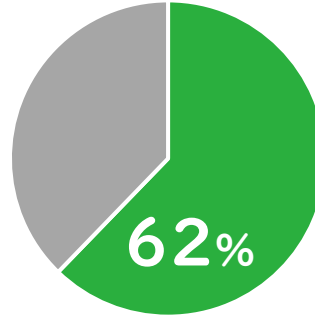
生活のなかであれば良いと思う取り組み

- ☑ 生活の中で欲しいものとして、何らかの補助制度や、学習支援があればよいというニーズは強い。なかでも補助制度を望む声は3分の2に上る。
- ☑ 厚労省の調査でも同様に、全国の母子世帯の半数は、最も困っていることとして「家計」と答えている(令和3年度全国ひとり親世帯等調査)
- ☑ これらは現在は中3までとしているトモスス基金の対象を拡大する理由となりえる。

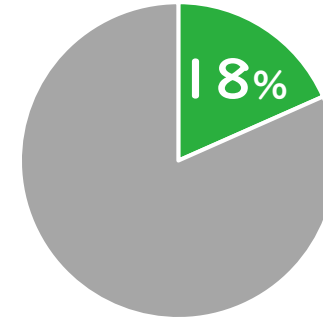
補助制度



学習支援



気軽にできる相談先



母子世帯のひとり親本人が最も困っていること(厚労省調べ)



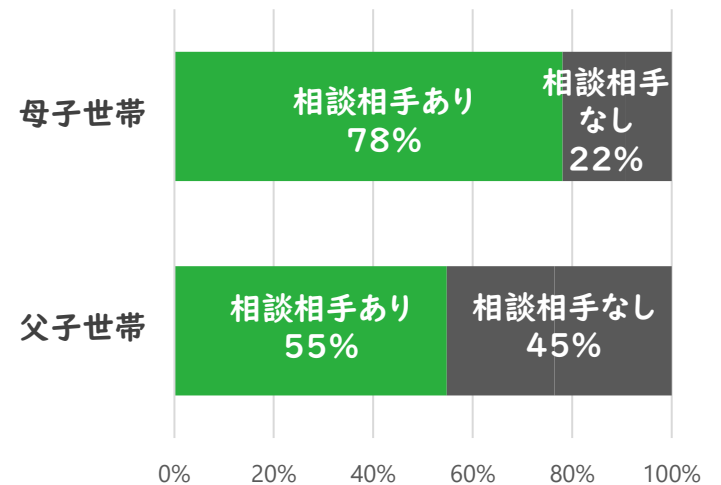
ひとり親の普段の相談相手

- ☑ 厚労省の調査では、相談相手がいない母子世帯は21%、父子世帯は45%
(令和3年度全国ひとり親世帯等調査)
- ☑ 本調査の回答者では、相談相手がいない割合は6%に留まっている。
5人の1人の割合で、スカウト関係者を普段の相談相手にしていることで
孤立が防がれているのではなかろうか

知人・友人 53%	ママ友 37%	スカウト関係者 19%	学生時代の友達 14%
両親・兄弟 46%	職場の同僚 33%	福祉のご担当者 12%	近所の知り合い 6%
		先生 9%	特になし 6%
			子ども 1%

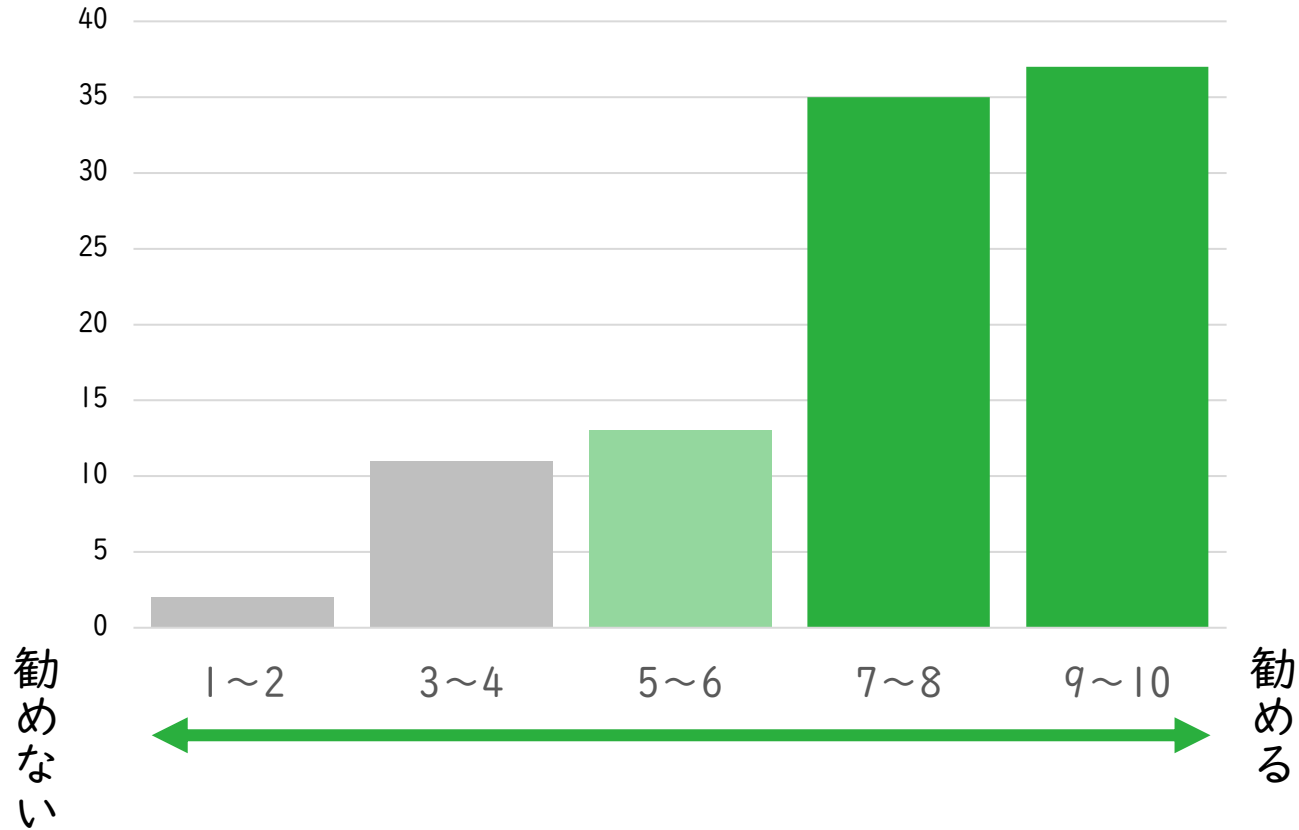
(複数回答)

ひとり親家庭全体における
相談相手の有無(厚労省調べ)



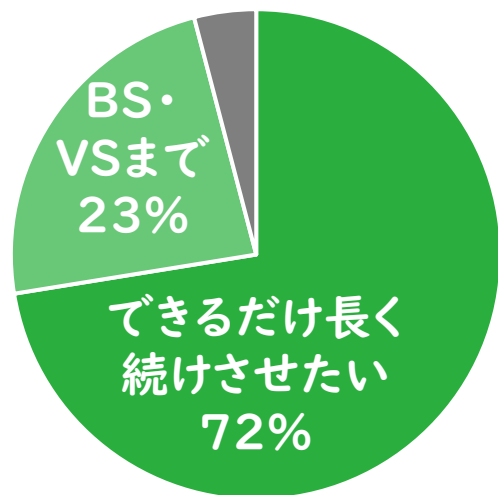
友人・知人へスカウト活動を勧めるか

- ☑ 70%以上が、スカウト活動を友人知人へ勧めたいと回答。
なかでも最高点10をつけている人が最も多い。
- ☑ 紹介・クチコミは、スカウト活動をはじめめるきっかけとして最も有効なものになる。

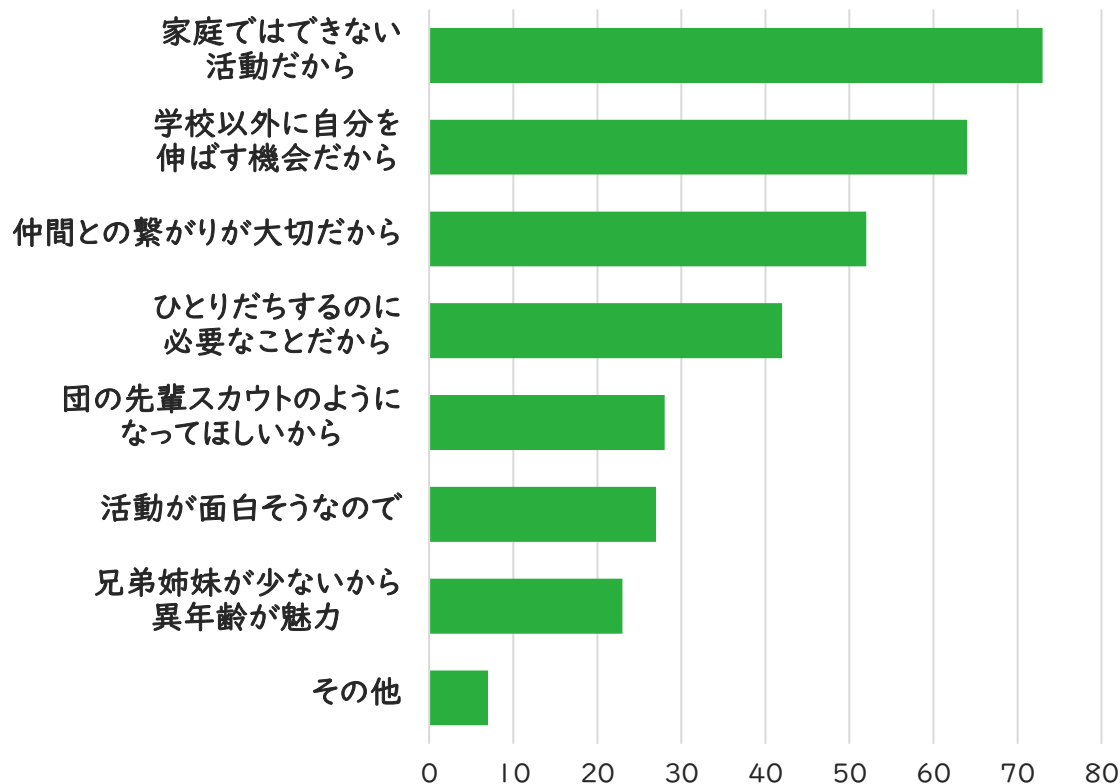


いつまでスカウト活動を続けてほしいか

- ☑ スカウト活動を「できる限り長くつづけさせたい」と思う保護者は、スカウトの年代にかかわらず圧倒的に多い。
- ☑ 長く続けさせたい理由は、スカウト活動に参加した動機と共通したものになった。



スカウト活動を続けさせる理由（複数回答）



おわりに

- ☑ スカウト活動は、**ひとり親家庭の期待**に応えられている。
- ☑ スカウト活動で**保護者の繋がり**も広がり、支えになっている。
- ☑ 多くの親が「**できるだけ長く続けてほしい**」と願っている。
- ☑ そのためにも**支援制度の継続・拡大**が大切になる。
- ☑ → **支援対象の年代を拡大**する必要があるのではないか！